

# ハノイ医科大学との学部間協定締結 - 訪問記 -

調印式日時：2013年6月14日午後4:15-午後5:30

場所：ベトナム ハノイ市 ハノイ医科大学

出席者：

大阪市立大学

医学研究科長 荒川哲男

国際交流委員会委員長 大畑建治

ハノイ医科大学

President, Associate Professor Guyen Duc Hinh,

Vice President, Prof. Ta Thanh Van, M.D., Ph.D. Genes & Protein Research,

Head of International Cooperation Department, Associate Prof. HA Phan Hai An (Kidney Disease & Dialysis)

Lecturer of Gene-Protein Research, Dr. Tran Huy Thin,

Excutive officer, International Department, Ms. Hoang Dieu Linh 他1名



経緯：

2009年に本学肝胆膵内科学河田教授がハノイ医科大学首席卒業生を postdoctoral fellow (Ms. Le Thuy)として採用し、その優秀振りと在阪日越友好協会の『ベトナムの学生はどんどん留学したがっており国も推進している。京都大学や大阪大学は受け入れが満杯状態なのでさらなる受け入れを大阪市立大学に期待している』の依頼があつて、河田教授がハノイ医科大学を訪問し診療間の協定が締結された。この診療間の協定を学部間協定に発展させる目的が今回の調印である。

ハノイ医科大学：

190年にインドシナ医科大学として設置され、1954年にハノイ医科大学として再設置されている。医学部、漢方医学部、予防医学部、歯学部、看護学部があり、全体で1学年1000名、医学部550名である。医学部は卒業までに6年かかる点は日本と同じである。

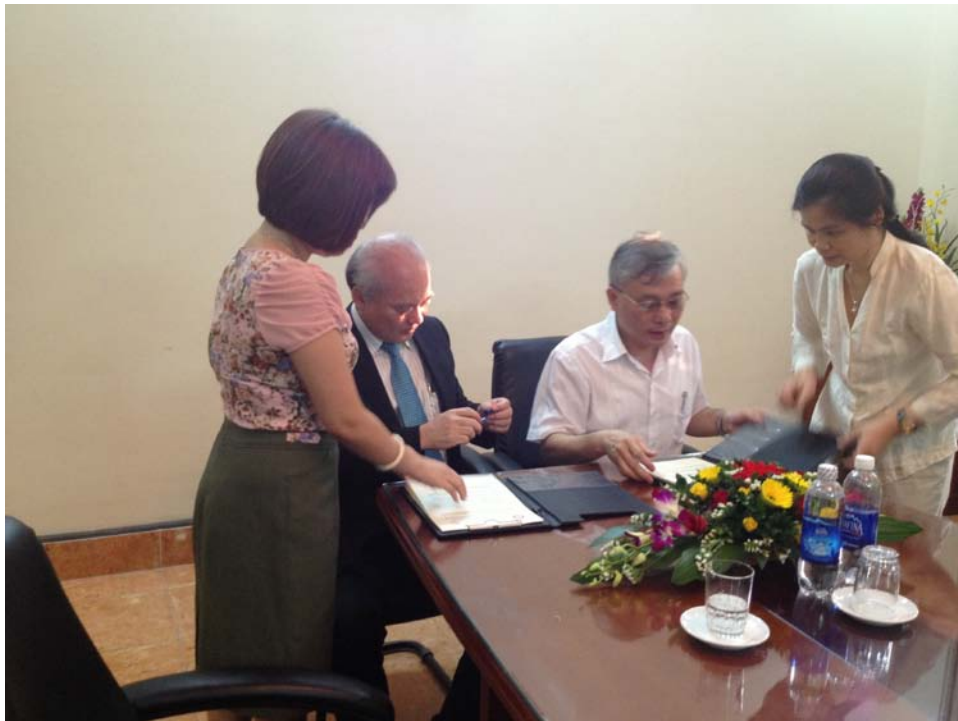
調印：

2013年6月13日午前10時30分に荒川研究科長と共に関西空港からハノイに向けて出発した。約4時間半でハノイ国際空港 Noi Bai International Airport に到着した。首都の空港としては小さく、タクシーの客引きもない。空港から田園の広がる郊外を経て都心のホテルに入った。街の道は良く整備されているが、インドネシアとよく似ていてバイクが多い。至る所で建築中のビルが見られた。まずホテルにチェックインし、大学からの迎車にて午後4時15分にハノイ医科大学に到着した。大学本部は新しくよく整備されていた。学長ら6名に迎えられた。



大学玄関の荒川研究科長

まず、両校の現状の説明があった。ハノイ医科大学は国際協定を多く結んでいるが、学生への経済支援ができず、海外留学する学部学生は非常に少ないこと、訪問留学生には宿泊場所の案内はするが寄宿舍はないこと、ハノイ市内に多くの関連施設を有していること、などであった。大阪市立大学は、学生寄宿舍が月 6000 円で利用できること、または適切な宿泊場所の斡旋を行うことなどを伝えた。その後に協定書調印が行われた。



調印



出席者全員での記念写真

病院見学：大学本部内の 250 床の中規模病院を見学した。すでに診療時間帯は終わっていたために、実際の活動を見ることはできなかった。この病院にも外国人向けの International Department があり、10 数室がすべて個室であった。



病棟廊下



International Department

歓迎会：

その夜、ハノイ市内のベトナム料理店で歓迎会が行われた。副学長の Van 先生は京都大学の本庶研出身でゲノム科学に造詣が深く、また Thinh 先生は京都大学と理研で 5 年近く遺伝子の研究に従事していたとのことで、兩人とも日本語は非常に難しいことを強調していた。

ハノイと大阪の物価に大きな隔たりはないようで、交通費と滞在費の部分的な支援でハノイ医科大学の学生を招聘できる。発展途上国の留学生の招聘としての奨学金制度の案が荒川研究科長から示された。



ベトナム料理店での歓迎会